とういの岬から

大房岬（たいぶさみさき）自然公園ニュースレター No.122

大房の醍醐味、夏の到来!!透き通った海で遊ぶもよし、汗だくになってお散歩して日陰でアイスを食べるもよし(笑)、夜の森へ昆虫探しに出かけるもよし…夏の思い出たくさん作ってくださいね!

Facebook・twitterを更新しています。旬の情報を公開中。「大房岬自然公園」で検索!

たいぶさ おすすめ磯コース

大房の磯遊びスポットはココ!!

①タイマイ浜の奥
②タイマイ浜と南けいせん場の間
③オオトリ浜の入り口

潮が引いている時は、海の生き物を捕まえて磯で遊べる絶好のタイミング!干満の差が一番大きい「大潮」の日が特におすすめです。

※公園内で遊泳はできません。
※安全第一で遊び、捕まえた生き物は海へ帰してあげましょう。

夏休みの狙い目は!?

大房岬の大潮の日
※【】内は干潮の目安
●7/22(土)〜24(月)【午前】
○8/5(土)〜8(火)【午前】
●8/20(日)〜23(水)【午前】

磯で見られる生き物

イワガニ

タマキビガイ

アオウミウシ

アメフラシ

ヨロイイソギンチャク

ムラサキウニ

アゴハゼ

危険!!

ヒョウモンダコ
年に数回目撃情報があります。見つけても絶対に触らないで!!

キャンプ場情報

●夏休みの土日、9月の連休は予約が埋まってきています!
キャンセル待ちでご案内できることも。お問合せください!

●ビジターセンターでもアイスの販売を始めました☆
5種類ほど。人気の『みよしのアイス』もあり。
ビジターで涼を取っていってください!

●第一キャンプ場、テーブル補修を進めています。
劣化が激しかったテーブルを補修しています!一部使いづらいところがあるかもしれませんが、ご了承ください。

新スタッフ紹介

こんにちは!この4月から公園の一員として働くことになった**中島諒**(りょう)と申します。
キャンプネームは長渕剛のファンということで「とんぼ」です。
趣味は写真、釣り、絵を描くことです。今年の目標は「公園にいる生き物の名前を全部言えるようになること」。
投網や狩猟などサバイバル関係にも興味があります。
見かけたらぜひ話しかけてください!

→裏面:新連載「大房の謎解きよみもの」

大房の謎解きよみもの

Q.なぜこんなに多い？！マテバシイ

大房岬のマテバシイの巨木の森は、人が造ったものだった？！

公園を歩くと樹種の多くが「マテバシイ」（方言で「とうじ」）という照葉樹であることに気づかれるでしょう。新緑の美しい黄緑や、子どもが喜ぶ秋のドングリ、巨木の中の森林浴など、大房の名物でもあるマテバシイですが、なぜここまで数が増えたのか？その歴史を紐解いてみたいと思います！

江戸 後期（1815-24 年）：クロマツ
↓
明治 前期（1883 年）：クロマツ
↓
昭和 前期 ＜戦中＞（1928 年）：クロマツ／マテバシイ 植栽？
↓
＜戦後＞（1949 年）：クロマツ 伐採！！／マテバシイ 植栽
↓
昭和 後期（1958 年）：南房総国定公園 制定
（1960 年）：マツクイムシ!! クロマツ 減少／マテバシイ 拡大
↓
（1980 年）：大房岬自然公園オープン

昔はクロマツの優先する岬だった

今から 1300 年も前の奈良時代から、現在「不動滝」がある一帯は「不動明王」と縁が深く、時代によって建物は変遷するものの「不動明王」が祀られ人々の信仰を集めてきた場所でした。江戸時代後期の『安房國古跡集』にある「大房不動尊」の図では、絵の形からこの周囲がマツ林だったことがうかがえます。また、1883 年（明治 16 年）の地図を見ると、平坦地はマツ林、オオトリ浜の東側の南面は草地だったことがわかります。同時期の千葉県内の林種分布を調べた調査でも千葉県内の海岸部はほとんどマツ林だったことから、大房岬がマツ林だったことが裏付けられます。

大房不動尊『安房國古跡集』の複写（和田正系所蔵）

戦争が大きな転機？！空白の時代

1928 年の『富浦町史』の地図によると、この頃も大房の樹種は針葉樹（マツ）となっています。1927 年、“大武佐岬”は陸軍の管理となり、東京湾への敵の進入を食い止める砦として要塞化され、秘密裡に開発されていきました。その中で、原植生が破壊され、生長の速いﾏﾃﾊﾞｼｲが要塞を隠す目的と薪炭を得る目的で植えられた可能性があります。（実際、現在も遺跡の周りはﾏﾃﾊﾞｼｲに覆われた所が多く、戦後 30 年の地図では、最大の要塞「探照灯跡」の周囲にﾏﾃﾊﾞｼｲ林が集中しています。）

また、マツの木は戦時中、灯りに使うためのマツヤニ（樹脂）の採取が強制され、それがマツの勢いを弱め、後のマツクイムシの被害につながったとの説もあります。

大房は再び民営地に。マテバシイの植栽が進む

終戦後ほどなく、1949 年（昭和 24 年）に大房岬は再び地元民に払い下げられ、平坦地は 230 名に分別し、立木は片野製材所が入札しました。この時の名簿の所有者によると、当時のマツの幹は一人では抱えられないほどの太さのものであったとのことです。岬の南西にある多田良西浜の熊野神社の幡の柱は、大房岬の大木のマツを切って利用したもので、現在も残っています。

民営地になると、人々は枇杷園や畑として土地を利用し始めますが、その際に畑の囲い（防風林）として、境に苗木を植えたそうで、現在でも一列に並んだﾏﾃﾊﾞｼｲの様子が随所に見受けられます。また、房総半島では海苔養殖用のホダ木としてﾏﾃﾊﾞｼｲは積極的に植栽されてきました（近年はホダ木にしなくなりました）。

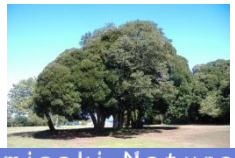
「南房総国定公園」制定から現在

1958 年に南房総国定公園が制定され、大房岬では 1976 年から自然公園に向けての整備が始まりました。1960 年代にはマツクイムシの被害が拡大しクロマツが徐々に衰退していきます。1975 年の「大房岬現存植生図」では、平坦地にはﾏﾃﾊﾞｼｲ林、ﾏﾃﾊﾞｼｲと落葉樹の混合林、ﾏﾃﾊﾞｼｲとマツと落葉樹の混合林の３群落がかなりの面積を占めており、この頃すでにマツ林、マツとササからなる群落は少ししか残っていません。公園となって 27 年が経つ現在、マツはほぼ姿を消し、大部分はﾏﾃﾊﾞｼｲを主体とした樹林で覆われています。

参考文献：「千葉県の自然誌 本編８」(2004)、「千葉生物誌 51 巻１号」(2001)、「自然観察の手引(x)大房岬」(1982 年)、以上全て川名興氏執筆。「三浦半島におけるﾏﾃﾊﾞｼｲ林とｽﾀﾞｼﾞｲ林との種組成、種多様性および植生構造の比較」小嶋紀之（2001）

一度優占すると強い！マテバシイ

ﾏﾃﾊﾞｼｲは、自然状態で優占することは殆どないですが、三浦半島や勝浦の山林でもﾏﾃﾊﾞｼｲの植林を放置した結果、大房のようなﾏﾃﾊﾞｼｲ林が生まれています。常緑のﾏﾃﾊﾞｼｲの葉は、林冠を厚く覆い、林床の植物の生育を妨げてしまうので、ﾏﾃﾊﾞｼｲ林は種の多様性が少なくなります。また、海洋性気候を好み、大房のように崖の上の土壌が深くない土地にも生息できる上に、萌芽更新（切り株からまた新しい木が生まれる）の力が強く、生長の速い木です。公園の環境に適し、安定したﾏﾃﾊﾞｼｲ林は、今後も長期間に渡ってその状態を維持し続けると予想されます。



過去に戻すことが素晴らしいとは一概には言えませんが、マツ林だった頃の森に想いを馳せながら、人間の手が入らない状態だったら大房はどんな森になっていたんだろう？今まっさらな土地になったらどうなっていくんだろう？と想像してしまいます。

（白井芙季子）

Taibusamisaki Nature Park たいぶさみさき 大房岬自然公園
【発行元】大房岬ビジターセンター （指定管理者）：NPO 法人千葉自然学校
〒299-2404 南房総市富浦町多田良 1212－29 TEL:0470-33-4551/FAX:0470-33-4663
メール:park_taibusa@chiba-ns.net HP：http://taibusa-misaki.jp/